

「異文化理解ゼミナール」

5月26日、教育学部英語科「異文化理解ゼミナール」(担当：荒尾浩子助教授)に北立誠小学校4年生が参加し、異文化学習を受けました。英語教育コースに所属する3年生4名が、今年2月中旬から1ヶ月間のタスマニア州(豪州)における海外研修の体験を基に、オーストラリアの文化について、食べ物・動物・建物・生活・学校などの項目ごとに発表を行いました。スクリーン上に写真を映し出しながらの説明は大人にも児童にもわかりやすく興味深いものでした。児童らは活発に質問をし、学生は海外研修の成果を披露し分かち合いながら異文化への意識を高めるよい機会となりました。



「高大連携」

本学は、6月7日、「国立大学法人三重大学と三重県立木本高等学校及び三重県立尾鷲高等学校との間における連携公開授業に関する覚書」(平成18年度)に調印しました。両校との連携公開授業は平成17年度から行っていますが、今回の調印により紀州地域(紀伊半島)に関係の深い自然や文化、社会を素材とした講義・演習を三重大学の教員が高校生を対象として行うことによって、生徒が学問に興味や関心を持ち、将来の意欲的な進路決定に生かしていくとともに、大学と高等学校が相互に教育内容の理解を深め、東紀州地域の教育力の向上を図ることが期待できます。

第6回国際環境シンポジウム「四日市学」開催



7月8日、三翠ホールにて、学生、来賓、一般など約300人が参加し、標記シンポジウムが開かれました。豊田学長からの挨拶に引き続き、第1部では「大学・企業の環境問題に対する社会的責任」をテーマに講演(環境ISO推進室長：朴 恵淑教授・人文学部、高木 浩環境部長・(株)中部電力、日下部 徹男所長・シャープ(株)亀山環境保全推進センター)がありました。また、第2部では「アジアの環境問題の現状と国際環境協力」について、韓国啓明大学の李 明均助教授が国の環境問題の現状と問題点を指摘し、日韓の国際環境協力の必要性について言及しました。最後に第3部の四日市公害と環境教育・研究・地域連携のテーマにおいて、本学の教員およびISO学生委員長の木村祐哉ら学生によるパネル討論が行われました。なお、来年は、四日市訴訟判決の35周年となる年でもあり、来年9月に

ISO14001認証取得を目指す本学にとっても大変重要な意味を持つこととなり、今後の取組が重要です。

第22回 APAN国際会議に参加

7月17日-21日、シンガポール国立大学で第22回APAN(AsiaPacific Advanced Network)国際会議が開催され、亀岡理事(国際交流担当)をはじめ本学APANスタッフが参加しました。この会議から正式なワーキンググループとなったe-Cultureセッション(チェア：亀岡)では、サントリー(株)グループ、セレボス・パシフィック・リミテッドのR&Dバイスプレジデント永井 元氏からアジア太平洋地域における食文化に関する興味深い発表が行われ、本学からは、人文学部の石井眞夫教授、佐藤義則教授が関連の発表を行いました。また、Common Areaセッションでは、医学部と国際交流センターを兼務する櫻井教授が包括的災害科学に関する発表を行いました。

SVBL第2期研究プロジェクトキックオフ会議開催

7月28日、サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(SVBL)の第2期研究プロジェクトキックオフ会議が、SVBLセミナー室で開催されました。森野理事(研究担当)の開会挨拶、前田SVBL長の第2期研究プロジェクト概要説明の後、小林三重県農水商工部産業集積室長により「三重県の産業振興」というテーマで特別講演が行われ、三重県の産業構造、特徴、問題点及び地域産業振興の新しい展開等が紹介されました。その後、第2期に採択された9プロジェクトの先生から、各プロジェクトの研究内容と今後の展望等が説明されました。この会議には、三重県職員、企業、本学教職員、学生等関係者約80名が参加し、盛況の内に行われました。

津波避難訓練

7月30日、志摩市国府白浜海岸で、志摩コーストガーディアンズ(本学災害対策プロジェクト室、三重県および志摩市の共同研究の成果として地域に結成された防災組織)主催で、地元住民、サーファー、海水浴客、海女等およそ3,000人が参加した津波避難訓練が行われました。



工学部で「ロボット競技会2006」開催される



8月2日、理工学学科(学科長：竹尾隆教授)でロボット競技会が開催されました。この競技は一年生向けの講義「理工学セミナー」のものづくり実習の成果発表会として毎夏開催されており、今年度で7回目を迎えました。今回はパネルで仕切られたゴールにピンポン球を入れる「the 玉入れ」競技が17チームで競われ、小中高生をはじめ一般市民の方々に公開されました。この様子は多くの報道機関で報道されました。

附属図書館のマスコットキャラクター、愛称は「ブックロウ」に決定!

3月~5月にかけて募集した附属図書館マスコットキャラクターのフクロウの愛称に、245人の方から293件のご応募をいただきました。審査の結果、愛称は「ブックロウ」に決定。「Bookと知恵の象徴フクロウの組み合わせが、図書館に相応しい」と評価されました。特別賞にはOwly(アウリー)とミエロウが選ばれました。8月2日には、ブックロウの生みの親である宮田脩平三重大学名誉教授・デザイナーをお招きし、表彰式が執り行われました。



国際交流サロンで留学生と職員の座談会開催

8月9日、留学生（7名）と職員（情報図書館、国際交流チーム）の座談会を開催しました。夏らしい水菓子と冷たい抹茶をいただきつつ、職員は浴衣を、留学生は浴衣か自国の民族衣装を着用し、自国の紹介（季節や食物や衣服など）や、図書館や大学の留学生サービスについて意見交換を行いました。「浴衣を着られて良かった」「いろいろな国の文化について聞けて良かった」「留学生向けの情報が確実に届くようにしてほしい」などの感想・意見が聞かれました。



「Jrロボコン2006in三重」



「ロボフェスタ2005in三重」の後継事業として、8月24・28・29日、9月3日の4日間にわたり、「Jrロボコン2006in三重」（運営：松岡 守教授・村松浩幸助教授・教育学部、共催：教育学部技術教育講座・三重県農水商工部産業集積室・三重県中学校技術・家庭科研究会）が開催されました。県内の中学生男女23名が抽選による混成チームを作り、2日間に渡って、三重大でロボットを製作し競技を行いました。アイデアを申請し、追加材料と交換できる特許制度など知財教育の実践研究としても試みられました。競技会場では2日間で作ったとは思えない完成度、ユニークな動作やデザインに驚きの声が上がっていました。

三重大学がんセンターの紹介

このたび国のがん対策基本法によって各都道府県に設置されるがん診療連携拠点病院の指定を目指し、三重大学附属病院内にがんセンターを立ち上げました。本院は従来三重県内のがん治療の中核的役割を果たして来ましたが、これを機会に三重県における最大のがん診療の拠点病院としてがん患者の診断、治療だけでなく、がん治療専門の医療スタッフの育成、地域がん拠点病院との連携による治療水準の向上、均てん化などにも努めていかねばならないと考えています。当面は院内におけるがん治療の集学化を目標として、（1）院内がん登録制度の整備、（2）緩和医療チームの編成、（3）外来化学療法部門の充実、（4）院内Tumor (Cancer) Boardの立ち上げなどを計画しています。

天津師範大学で「合作併学日本語コース」



6月23日、本学は「天津師範大学日本語教育コース共同教育に関する覚書」の締結調印を行いました。また、9月8日-11日には、豊田学長をはじめ8人が天津師範大学を訪問し、天津師範大学新潤成学長、李家祥党書記等と両校の国際交流について、意見交換や今後の協力関係を確認するとともに、同大国際教育交流学部において本学との「合作併学日本語コース」（実施委員会委員長：東 晋次教授・教育学部）の入学式に出席しました。なお、新日本語コースでは、合作併学の一環として中田常男三重大学名誉教授が特命教授（教育学部）として今後1年間日本語教育に携わることになっており、9月8日に着任しました。

「高大連携サマーセミナー」開講

昨年に引き続き今年も7月27日～8月24日に標記サマーセミナー（高等教育創造開発センター高大連携担当責任者：石田正昭教授・生物資源学部）を開講しました。今年は医学部を除く4学部8科目の講義、実験・実習が開講され、合計17校、延べ96名の高校生が参加しました。参加者の多かった高校は松阪高校、高田高校でした。人気が高かった「サカナとイルカのからだを比較する」では、受講希望者を半数以下に絞り込むほどでした。サマーセミナーは、本学と県内の高等学校が連携し、高校側から推薦された意欲的な生徒を対象に少人数教育を実施することによって、高校生が進路決定上の指針を得ることを目的としています。



「国際教育推進プラン」始動



文部科学省の国際教育推進プランに採択された教育プログラムの活動開始記念イベントを8月31日にメディアホールで行いました。イベントでは、この教育プログラムの概要紹介の後、津市内学校関係者（附属学校を含む）、津市教育委員会、三重県教育委員会、NPO法人パンゲア、NPO法人みえIT市民会議、(株)イーラボ・エクスペリエンス、そして三重大の関係者により今後の展開について活発な議論が交わされました。その結果、用いるソフトと機器の理解を深めるための勉強会の実施、先行する学校の授業参観等の交流の促進、サポートと教育プログラムの新規開発を行っていくことが確認されました。

「災害対策プロジェクト室の研究および活動成果報告会」開催

9月5日、本学災害対策プロジェクト室（室長：畑中重光教授・工学研究科）の研究および活動成果報告会が三翠ホールで開催されました。三重県防災危機管理部若林副部長の基調講演の後、10名の教員が成果の報告を行いました。報告内容は、総合大学の特色を活かし、三重県防災危機管理部等との共同研究（代表者：川口 淳助教授・工学研究科、児玉克哉教授他・人文学部）や、実際の災害調査報告（代表者：林 拙朗教授・生物資源学研究科、中川一郎国際交流センター客員教授他）など、文系・理系の広い分野から行われ、集まった約50名の聴衆は熱心に聞き入っていました。

サマースクール「夏期日本語日本文化研修」開催

8月19日-9月15日の4週間、国際交流センター主催の第1回標記研修（プログラムコーディネータ：大河内朋子教授・人文学部、日本語教育コーディネーター：森 由紀教授・国際交流センター）が開催され、ハイデルベルク大学生10名を中心にドイツ各地の5大学で日本学を専攻する15名の学生が参加しました。期間中、参加学生たちは三重県内各地にホームステイをしながら、午前中は日本語の授業、午後からは見学・研修（県庁、NHK、伊勢新聞、徳川美術館、伊賀流忍者博物館等）に参加しました。また、第1週目にはタンデム授業と合宿が行われ、本学でドイツ語を学ぶ学生たちとの交流も深めました。なお、最終日には、修了式が行われ参加者全員に修了書が渡されました。



「国際インターンシッププログラムの実施に向けたシンポジウム」出席

9月5日-9日まで、タイのチェンマイ大学ほか5大学と共同してカセサート大学において開催された標記シンポジウムに、本学から関係者3名が出席しました。本学はこれら主催大学と学術交流協定を締結しており、今後、国際インターンシッププログラムを実施するに当たって必要となる「覚書」締結に向けた準備作業、また、タイ国日本大使館において学生のための円滑なVISA取得を目的とした本プログラムの実績報告ならびに今後の計画の説明およびタイ国企業での受け入れの可能性についての調査を行いました。

生物資源学研究科が連携大学院生の募集開始を発表

生物資源学研究科は、本年4月1日に設置した連携大学院について、10月1日付で連携教員（客員教授及び客員助教授）が決まったことから、9月21日、県庁舎の記者クラブにおいて、連携する独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜茶業研究所及び独立行政法人水産総合研究センター養殖研究所とともに19年度からの学生を受け入れるため、本年12月に学生募集を開始すると発表しました。県内では初めての連携大学院学生の募集であることから、報道機関からは多くの質問等があり、関心の高さが伺われました。



生物資源学部で「保護者懇談会」開催

9月23日、生物資源学部において、3年次に在籍する学生の保護者を対象に保護者懇談会が開催されました。天野秀臣学部長の学部の現状説明に続き、前川行幸三翠同窓会学内役員代表から挨拶がありました。さらに、在学生（生物資源学部4回生4名）から、就職活動、大学院への進学等などについて詳しい説明がありました。その後、講座別に引率責任者（教員）が実験室や研究室を案内した後、保護者ごとに個別の懇談が行われました。参加した保護者は110名を数え、例年のことながら盛況な懇談会となりました。

「モーツァルト生誕250周年記念レクチャーコンサート」開催

9月23日、附属図書館主催で、標記コンサートが新国立劇場オペラ研修所所長の海老澤敏氏を招いて三翠ホールで開催されました。コンサートでは、海老澤氏からモーツァルトに関わるエピソードや演奏曲目の解説がユーモアを交えてわかりやすく話され、それに挟まれる形で、ヘッドコーチのブライアン・マスダ氏のピアノ伴奏による3名の声楽研修生（鈴木愛美さん・ソプラノ、中川正崇さん・テノール、森雅史さん・バス）のモーツァルト歌劇「フィガロの結婚」のアリアや「魔笛」の三重唱等が披露されました。コンサートには、募集を大幅に超える260名の参加があり、来場者から、「オペラが好きになった」、「演奏が心に響いた」との声が聞かれるなど、大変有意義な催しとなりました。また、コンサートを記念して図書館で開催されたモーツァルト資料展にもたくさんの来館者がありました。



お知らせ

保健管理センターから「2006年度三重大学メンタルヘルス集中セミナーおよび小セミナー」を開催

恒例となりました標記セミナーおよび小セミナーを開催いたしますので、奮ってご参加下さい。

＜集中セミナー＞

- 第1回 10月2日（月）13：30～15：00 「三重いのちの電話の現状と問題点」対象：学生、教職員
- 第2回 10月19日（木）15：00～16：30 「早期発見から職場復帰を念頭においたメンタルヘルス対策」対象：教職員

＜小セミナー＞

- 第1回 10月4日（水）17：00～18：00 「だれでもできる学生支援のためのインテーク」対象：教職員
 - 第2回 10月25日（水）17：00～18：00 「メンタルヘルス労務管理について～管理職としての基礎的理解～」対象：教職員
- 詳しくは、(<http://www.hac.mie-u.ac.jp/>メンタルヘルス集中セミナーのご案内.pdf)をご覧ください。

国際交流センターから「第13回 3大学国際ジョイントセミナー&シンポジウム 2006」を開催

1994年に三重大学がタイ・チェンマイ大学と中国・江蘇大学に呼びかけて始まった標記の国際交流事業の第13回大会が、10/29～11/2に三翠ホールで開催されます。本学及び海外の23大学から約140名（学生100名、教職員等40名）が参加し、約120件の研究発表が行われる他、ワークショップなどが予定されています。

期 日	3大学セミナーの主な行事
10/29（日）	受付、レセプション
10/30（月）	開会式、記念講演、セミナー／シンポジウム
10/31（火）	セミナー／シンポジウム
11/1（水）	セミナー／シンポジウム、エキスカージョン、キーパーソンミーティング
11/2（木）	セミナー／シンポジウム、ワークショップ、閉会式

なお、このことに関するお問い合わせ等は、学術情報部国際交流チーム(TEL:059-231-9688・内線6840)までお願いします。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。亀岡孝治 (vpre-info@mie-u.ac.jp) または井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp/>) ご覧いただけます。》編集責任者/理事・副学長 渡邊悌爾